

10月31日 創世記4章1～10節 今日の説教から
説教題：「どうしてこうなった」

エデンの園の物語のように、旧い時代・原始的な生活を営んでいた人類は、「採取」によって植物を手に入れていました。木になった実をもいで食べたり、地面を掘り起こして芋のような植物を食べたりという原始的な採取生活は数百万年規模で行われていたようです。

今日の個所ではそこから時代が進んで、アダムとイブの息子たちが新しい生活形態へと移行している様子が記されています。旧石器時代に行われていた狩猟採集生活から、新石器時代の行わっていた「農耕と牧畜」の時代へと進んでいます。

人間から生まれた最初の兄弟であるカインとアベルは、自分の働きの成果として同じように神様に捧げものをします。兄カインは「土の実り」を神様への捧げ物として、弟アベルは羊の群れの中から「肥えた初子」を捧げ物として持ってきました。その結果として、神様はアベルの捧げものには目を止め、カインの捧げ物を受け入れることはありませんでした。

この理由は、二人の捧げたものに注目すると理解することができます。カインの捧げものが「土の実り」とだけ書かれているのに対して、アベルの捧げものは「羊の群れから肥えた初子」を選んで捧げています。神様に対して「自分の得たものの中で何よりもいいものをさしあげよう」というアベルの気持ちに対して神様は応えたのであり、それに対してカインは最もいい実りを自分のために取っておいていたのでしょうか。カインは神様よりも自分を優先してしまったのです。

人間の罪は、この「自分中心」という部分にあります。そして、人間をこの罪へと導くために、様々な欲求・誘惑が私たちには襲い掛かってきます。金銭的な誘惑もあれば、娯楽としての誘惑や男女関係の誘惑もあります。また、私たちは自分と誰かを比較する中で、「私は正しい」「あの人は間違っている」そう思ってしまった時に、大きな罪に陥ってしまいます。正しくありたいという思いは理性の働きです。ただ、自分の正しさを疑わなくなってしまった時、私たちは自分を中心に考える欲求・罪の中に戻ってしまうのです。

そして何より、私たちは「愛されたい」という根源的な、しかし満たすことが難しい欲求にいつもさらされています。最近であれば「承認欲求」という言い方をすることもありますが、私たちは認められていなければ、愛されていなければ生きることができないのです。自分を愛して神様を愛さなかったカインは、しかし神様からの愛に飢えていました。だからこそ、神様の捧げ物を受け取ってもらえた弟のアベルが許せなかつたのでしょうか。しかし、カインは愛されていないわけではありませんでした。いえ、そもそも神様からの愛はすべての人々に等しく注がれているのです。愛されていない人などいないのです。

私たちは、福音書に記されている多くの言葉から、神様が私たちに愛を注いでくれていることを知っています。イエス様の言葉によって、イエス様の行動によって、私たち一人一人が、神様に愛されていることを知っているのです。だからこそ、私たちは満たされて、罪ではなく神様の言葉に支配されて信仰を歩むことができるのです。

私たちは、その愛に驕るのではなく、キリスト者だから正しいと高ぶるのではなく、いつも自分に対して「どうして」「本当にそうなのか」と問い合わせ続けることが求められています。私たちは、それを神様から期待されているのです。その神様の愛と期待に押し出されて、今週一週間の、これから歩みを共に進めましょう。

今日の説教箇所：創世記 4 章 1～10 節

- 1:さて、アダムは妻エバを知った。彼女は身ごもってカインを産み、「わたしは主によって男子を得た」と言った。彼女はまたその弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。時を経て、カインは土の実りを主のもとに獻げ物として持って来た。アベルは羊の群れの中から肥えた初子を持って来た。主はアベルとその獻げ物に目を留められたが、カインとその獻げ物には目を留められなかつた。カインは激しく怒って顔を伏せた。主はカインに言われた。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない。」
- 8:カインが弟アベルに言葉をかけ、二人が野原に着いたとき、カインは弟アベルを襲って殺した。主はカインに言われた。「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」カインは答えた。「知りません。わたしは弟の番人でしょうか。」主は言われた。「何ということをしたのか。お前の弟の血が土の中からわたしに向かって叫んでいる。今、お前は呪われる者となつた。お前が流した弟の血を、口を開けて飲み込んだ土よりもなお、呪われる。土を耕しても、土はもはやお前のために作物を産み出すことはない。お前は地上をさまよい、さすらう者となる。」